

C-70 衣服設計における体型分類の研究

京女大家政 ○畠山頼江 土井サチヨ 西村美智代

目的 衣服を設計するにあたり着衣基体としての体型を総合的に把握することが重要である。体型とは人体表面の形状を数量的に測定し、また形態を視覚的にとらえて観察し、その複合状態を表現するものである。このような考えに立脚して体型の標準化の基準を見出そうとした。

方法 昭和47年4・5月に被験者18~25才の女子学生633名について、体型を把握する手段として、前面、側面のシルエットを撮影した。またスライディングゲージを用いて体幹部の横断面、縦断面の形状を採取した。

結果 平面的に投影されたシルエットから胸部、胴部、腰部の矢状径/横径 $\times 100$ の示数値を求め、形態との関連性を考察して類型化のよりどころを検討することができた。